

すわみつえ通信

No.175 2021年5月31日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かしいのちとくらしを守る市政に

6月議会の主な日程

- 6月1日(火) 本会議(議案の上程、説明)
6月4日(金) 本会議(質疑、討論、採決、委員会付託)
6月7日(月) 文教福祉常任委員会・まちづくり常任委員会
6月8日(火) 政策総務常任委員会・市民環境常任委員会
※すわみつえ市議は、6月議会から市民環境常任委員会に所属します。
6月10日(木)・11日(金)・15日(火)・16日(水) 一般質問
6月18日(金) 本会議(委員長報告、質疑、討論、採決)、閉会

*すわみつえ市議の一般質問は、6月16日(水)午後1時頃から3項目行います。

6月議会始まる

鴻巣市議会6月定例会は、「コロナ禍において市民の皆さんの命とくらしを守るため、6月1日(火)より6月18日(金)まで18日間の日程で開催されます。皆さんの声を全力で届けますので、ご意見・ご要望を是非お聞かせください。」
今議会に上程される議案は専決処分(報告3件と補正予算・条例改定など)7議案です。市民の利便に合うものか市民目線で審議します。

1. 住民サービスの充実を求め、職員体制を質します

「住所変更の手続きに行ったのに随分と待たされた」「残業かしら、いつまでも電気が消えない」など、市民の方から市職員の方々の働き方を心配する声が聞かれます。市民サービスを心配する声は、まず健康でビジネスに従事する職員が、まず健康でなければ「行政は最大のサービス業」は提供できないと思います。

2. 高齢者も介護者も事業者も安心の介護制度を求めます

介護申請がしづらい、コロナ禍でサービスの利用を控える、感染防止対策で事業継続がさらに深刻になったと声が届きました。誰もが安心してける介護制度を求めます。

3. 笠原地区から鴻巣中央小学校に通学する児童の安全対策を求めます

「子どもたちが通学で乗る大型バスの運行は、運転手ひとりではなく補助員をつけて、乗降時と運行時の児童の安全を確実にしてほしい」と保護者から通学時の安全を求める意見が届きました。通学支援の安全対策を求めます。

また、来年の廃校に向けて笠原小学校在校生、保護者、学校関係者への対応について質します。

鴻巣市ワクチン接種予約のお手伝いをしています

75歳以上の新型コロナワクチン接種の予約は、繋がりにくい状況でしたが、5月25日(12時現在)13,213名の方が予約を完了しています。予約開始からインターネットで予約のお手伝いをしています。

65歳〜74歳の方への「予約はがき」発送の段階となりました。スムーズな接種となるよう引き続き、取り組んでまいります。

市役所門前での行動に参加

5月26日(水)朝8時から8時30分に鴻巣革新懇が行った、鴻巣市役所庁舎門前での職員への「新」ごみ処理施設建設問題「チラシ」の配布に参加しました。



多くの職員が受け取ってくれました。民間企業に勤務していた若い頃の労働組合活動を思い出しました。

俳句コーナー

讚美歌の路地にこぼれて聖五月

瑠璃子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

「日本国民の命より五輪優先」の発言許せない



志位委員長が会見

日本共産党の志位和夫委員長は5月27日、国会内で記者会見し、この間の国際オリンピック委員会（IOC）の幹部の一連の発言について、「常軌を逸した発言だ。断じて看過できない」と強く批判。発言への抗議と五輪中止への決断を菅義偉首相に求めました。

この間、IOCのコーツ調整委員長（副会長）は、緊急事態宣言のもとでも五輪を開催するかと問われ「もちろんイエスだ」と答えています。バツハ会長は「（東京五輪開催のために）誰もがいくらかの犠牲を払わなければいけない」と述べています。最古参委員のパウンド氏は「菅首相が中止を求めても、大会は開催される」（『文春オンライン』）とまで発言しています。志位氏は、これらの発言について、「国民のなかにこれだけ批判が広がっているのは、五輪強行による感染拡大への不安とともに、公平性という点でも説明のつかないことをやっていることへの怒りもある」と指摘。各紙が五輪中止を求める社説を掲載し始めたことも示し、「東京五輪・パラリンピックは中止し、あらゆる力をコロナ収束に集中させるべきだ」と主張しました。（しんぶん赤旗 5月28日付）

「朝日」社説五輪中止要求

しんぶん赤旗 5月27日付

朝日新聞26日付は、東京五輪オフィシャルパートナーとなっている全国紙では初めて、五輪開催の中止を求める社説を掲載しました。社説は「冷静に、客観的に周囲の状況を見極め、今夏の

開催の中止を決断するよう菅首相に求める」と五輪中止を明確に主張。「人々が活動を制限され困難を強いられるなか、それでも五輪を開く意義はどこにあるのか」と批判しています。また、「五輪は政権を維持し、選挙に臨むための道具になりつつある」と菅政権による政治利用を批判。「社会に分断を残し、万人に祝福されない祭典を強行したとき、何を不得、何を失うのか。首相はよくよく考えねばならない。小池百合子都知事や橋本聖子会長ら組織委の幹部も同様である」と指摘しています。

コロナ被害は選手らの自己責任 疑問の声

IOC、五輪参加同意書に明記

【ジュネーブ共同】

国際オリンピック委員会（IOC）が、東京五輪の選手らに求める参加同意書に、自己責任のリスクとして、新型コロナウイルス感染症や猛暑による「健康被害」を盛り込んだことが5月28日、分かった。同意書は各大会で提出が義務付けられているが、今回は重篤な身体への影響や死亡に至る可能性にも言及する異例の内容で、疑問の声も出ている。少なくとも夏冬の直近6大会では、ジカ熱感染が懸念された2016年リオデジャネイロ五輪を含め参加同意書に「感染症」や「死亡」の文言記載はなかった。（共同通信社 5月29日付）



コロナ陽性者を嗅ぎ分けます

探知犬の精度97%



【ロンドン＝時事】新型コロナウイルス陽性者を犬が97%の正確性で探知できるというフランスの研究結果が出ました。新型コロナの一般的な検査よりも精度が高く、犬の探知能力が科学的に裏付けられた格好。今後空港などで探知犬が活躍する場面も増えそうです。仏国立獣医学校が5月18日、公表しました。

研究では今年3～4月にパリで335人にPCR検査を実施し、109人が陽性でした。これらの被験者の脇の下から汗を採取して瓶に封入し、複数の犬に嗅がせたとところ、陽性の場合には97%、陰性の場合も91%の精度で識別したといます。欧州などで一般的な新型コロナの簡易検査「ラテラルフローテスト」は、症状がある感染者を判別する精度が平均72%程度とされています。

（しんぶん赤旗 5月27日付）